

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索 ▶
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第302号
平成20年12月

電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
choonji@aichi.email.ne.jp

持戒

【語意】 仏教徒たるべき戒律を保つこと



制作：雅子

いのち
生命あるもの
殺してはならんぞ

盗つてはならんぞ
与えられざるもの

みだ
男女の淫らな
交わりはならんぞ

あざむ
人を欺き騙す
嘘はならんぞ

心を乱す
酒もならんぞ

むす
僅か五つの仏の戒め
心して保つべし

いかん
如何ともしがたき

は
破戒の時は
血涙流して懺悔すべし

般若波羅蜜 ③ 持戒

「誰でもよかった」といって殺人をする(殺生)。公金で裏金を作って飲み食い無駄遣いする(偷盗)。不倫離婚再婚を繰り返す(芸能人(邪姪)。偽装や振り込め詐欺で人を騙す(妄語)。飲酒運転でひき逃げをする(飲酒)——。

近年、このような事件のニュースを聞くことが、何と多いことであります。しかも、罪の意識が希薄で、連日伝えられる悲しい報道に、ただ虚しさを感じます。仏教信者であれば護持しなくてはならない五つの戒め、**不殺生戒・不偷盜戒・不邪淫戒・不妄語戒・不飲酒戒**は、今、このような時代だからこそ、それぞれの人が真剣に、保とうという意識を持たねばなりません。

戒律というのは、本来、修行者

の生活規律のことで、仏のいましめを自発的に守ろうとする心の働きをいう**戒**と、僧に對する他律的な規範をいう**律**との合成語であります。ただ、一般的には、信者が信仰生活において守るべき規律・規則のことをさし、仏教に限らず、他の宗教にもあります。

しかし、宗教によって、信者がその戒を守ろうとする意識構造はよほど違います。たとえば、ユダヤ教の**モーセの十戒**の場合、
①あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない。
②あなたは、自分のために、偶像を造つてはならない。

③あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。
④安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

⑤あなたの父と母を敬え。

⑥殺してはならない。
⑦姦淫してはならない。

⑧盗んではならない。

⑨あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

⑩あなたの隣人の家を欲しがってはならない。

以上、前半四つは神に對する人間の義務、後半六つは人間関係の倫理規定であります。これは、唯一神ヤウエとイスラエル民族との契約であり、遵守する者には**恩恵**が、違反する者には**報復**が予定され、そこには極めて厳格な**律法主義**の思想があります。

一方、キリスト教の戒律に相当するイエスの**山上の垂訓**の場合、律法は、神の恩寵への感謝として守るべきものであるとし、福音による神の救済を説きました。ここに、キリスト教が民族の枠を超え

て、ユダヤ教とは一線を画す世界宗教への道が開かれました。

そこ(マタイによる福音書第五章七章)には、「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである」、「右の頬を打たれば、左も向けよ」、「汝の敵を愛せよ」、「裁くな、裁かれないためである」、「何でも人にしてもらいたいと思うことは、その人にせよ」、「狭き門より入れ」といった、キリスト教の中の教義が述べられております。ただ、たとえば姦淫(かんいん)に関しても「みだらな思いで他人の妻を見る者は誰でも、すでに心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出して捨ててしまえ。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである」と、実に厳しく、

律法的傾向の側面は否めません。

仏教学者鈴木大拙氏は、そのあたりを評して、ユダヤ教・キリスト教は、厳然たる父的宗教であり、それに対し、仏教は、罪をも包み込む母的宗教であると指摘されています。

すなわち、われわれ仏教徒は、

『法句経』 一八一番

ひとの生を うくるはかたく

やがて死すべきものの

いま生命(いのち)あるはありがたし

正法(しやうぽう)を 耳にするはかたく

諸仏(しよぶつ)の 世に出づるも

ありがたし

を、先ず抛(な)り所(ところ)とすべきでありましょう。ただ「欲しかったから」と盗(と)ったり、「好きになったから」と不倫(ふりん)して、「自由に生きてどこかが悪い」と嘯(うそ)いているようでは、畜生(ちくせい)にも劣る生き方といわざるを

えません。犬でも猫でも、まして、ゴキブリでもない、奇しくも人間として生をうけたわけですから、生きていくかぎり、人間としての資質(ししつ)を磨く努力(おとた)を怠(おろそ)かしてはなりません。今の自分より、少しでも優れた人の話を、常に聞くように心がけることが大切です。

仏道修行(ぶつだうしゆぎやう)、つまり、智慧(ちゐゐ)の完成

を目指そうとする般若波羅蜜(ぼんげはらみつ)は、出家者(しゆけしや) (僧)だけのものではなく、仏教徒(ぶつたう)すべてのものです。中でも持戒(ぢけい)は、生活を正すという意味で、基本中の基本です。

しかし、凡夫(ぼんぷ)なるが故、如何(いかん)ともしがたく破戒(はけい)せねばならないときもあります。そのときは、我が愚(おろ)かさに、血涙(ちくなみ)を流すほどに懺悔(ざんげ)をし、共に泣いて下さる仏にすがり、「南無阿弥陀仏」と念仏(ねんぶつ)を唱えるのです。

大袈裟おおげさ

釈迦しやくかが城を出て森に入って剃髪ていはつした際、彼は貴人として身につけていた立派な衣服を、猫師の粗末な服と交換したという伝説が残っている。つまりは、汚れた服である。この、汚れたという形容詞が梵語ほんごのカーシャヤ。これには、赤、赤褐色、暗赤色、つまり汚い雑色という意味もあった。これが後に、僧侶が身につける衣服「袈裟けさ」を表すこととなる。

釈迦を慕う出家修行者たちは、そうした質素の精神を尊び、死人を包んで墓場に捨てたボロ布などを拾ってきて洗濯し、継ぎ合わせて用いたというからすごい。現在の袈裟も、方形の布を縫い合わせて作られているが、これはボロ布を継ぎ合わせた名残なのである。

ところがこの質素な衣服も、自

然環境の異なる中国、日本に仏教が伝わるにつれ、大きく変わっていく。インドと異なり、寒さも厳しい。そこで下衣を用いるようになり（「衣ころも」）、その上に着て肩からかけるのが袈裟とされるようになった。それがやがて、修行用の衣服から儀式用の衣服になり、現在のように豪華なものへと変わっていくのである。

東南アジア諸国では、今でも黄色みを帯びた褐色の衣服を左肩から右脇下にかけて着用しているが、あれこそが本来の袈裟なのだ。しかし、釈迦の精神はしだいに忘れられ、袈裟は仰々しくなり、「大袈裟」のことが生まれてくる。現代の日本の僧侶たちの、あの金ピカの袈裟を見ると、釈迦はどんな感想をもらすだろうか。

袈裟の、一方の肩から斜めにか

けて着る様子を表すことばが「袈裟懸け」。そこから「袈裟斬り」の表現が。

（『仏教のことば』早わかり事典）

雑記

▼阿弥陀堂寄進

新たに次の方からご応募いただきました。感謝申し上げます。

・松村憲一様 一三万円（二〇〇）

▼アマゾン

迅速・送料無料・年会費無料のカードが使えるというので、本を購入する場合、アマゾンという米国の会社を結構利用しています。ところが、いきなり高額の有料カードに変更になりビックリ。これもどうやらサブプライム・ローンの影響らしいです。

◆山茶花さざんかや今年も赤く

紅く咲け 沐魚

